

2018（平成30）年2月

2018（平成30）年

「第19回 コミュニケーション障害児に関する勉強会」

ご案内

田中美郷教育研究所

拝啓 年度末を控え、先生方にはお忙しくお過ごしのことと存じます。

当勉強会は例年、全国の先生方からの演題を募集し、ご発表頂き、それをもとにディスカッションを展開していくという形式をとっております。

学会とは異なりまして、じゅうぶんに時間をとることができますので、聴覚やコミュニケーションに障害のあるお子さま方に関わる先生方の活動につきましてご発表頂き、お聞きの先生方には、臨床のお役に立つ情報を多く得て頂けていると存じます。

現時点ではプログラムができておりません。お申込みをいただきました先生には、開催前にプログラムを送らせていただきます。

お忙しい時期とは存じますが、ご参加をお待ちいたしております。

敬具

開催要項

日 時：2018（平成30）年4月1日（日）10:00～16:00（受付9:30～）

場 所：産業技術大学院大学

東京都品川区東大井1-10-40

りんかい線 「品川シーサイド駅」 出入り口B 徒歩3分

京浜急行線 「鮫洲駅」 徒歩9分 「青物横丁駅」 徒歩10分

ご参加の先生には後日プログラムと一緒に地図をお送りします。

会 費：5,000円（当日お支払いください）

参加確認：3月25日（日）までに別紙「参加確認書」をFAXしてください。

メール・お電話でのお申し込みは下記あてにお願いします。

演題申込：演題をご用意いただける先生は、**3月18日（日）**までに、
テーマをお書き添えのうえ、参加確認書をお送りください。

申 込 先：田中美郷教育研究所 担当：芦野聡子

〒154-0021 東京都世田谷区豪徳寺 1-32-8

TEL:03-3420-5159 FAX:03-3420-5179

メール：ashino@noside.org

昼食申込：会場近くに食事ができるお店があります。

ご希望の方にはお弁当(1,000円)をご用意いたします。申込書にてお知らせください。飲食物のお持ち込みの場合はロビーをご利用頂けます。

駐 車 場：来校者用駐車場がありません。お近くのコインパーキングをご利用ください。

田中美郷からのメッセージ

最近の世界情勢の変革は目覚ましく、従来では考えられなかったような新しい局面が様々な面に出てきたと言われるようになりました。

我々の勉強会で取り上げてきた分野にも、時代が解決を求める現実的問題が次から次へと出てきていることを強く感じます。ちなみに、

- 1) 新生児聴覚スクリーニング（NHS）の取り組み、とりわけその受け皿としての療育の質的向上
 - 2) 子どもの人工内耳（CI）を巡る医療と教育の乖離
 - 3) 難聴を伴う重複障碍児の増加とその対策
 - 4) 遺伝学の進歩と療育の問題
- などです。

これらの問題を論じるに当たり、全国聾学校長会の最近の年次報告には、最近の乳幼児教育相談例（0及び1歳児）の増加（主としてNHSによる）と、その対応に対する保護者の意見や質問が集められており、これには我々臨床家も謙虚に耳を傾けねばならない問題が沢山述べられていますので、私なりに整理して以下（別紙1、別紙2）に紹介します。

これらの保護者の意見や質問を読むにつけ、我々は子どもの将来ないし先々の人生に対して如何程の責任を持って対応しているであろうか、大いに反省を求められていることを痛感します。質問には素朴な、あるいは初歩的なものから難問まで色々ありますが、しかし初歩的といっても決して安易には答えられません。ここには研究的に取り組まなければならない問題も沢山存在します。

4月の勉強会ではこれらの問題をテーマにして、各分野から自由な、忌憚のない建設的な意見や主張を延べあって頂くことにしますので関連する演題や発言を歓迎いたします。

田中美郷

別紙 1

保護者からの質問及び意見：

- 1) 補聴器 (HA) 及び CI に関して
 - ① HA や CI を着ければことばが話せるようになるか
 - ② 難聴乳幼児に HA を常用させるにはどうすればよいか
 - ③ HA と CI の違い、そのメリットとデメリットについて
 - ④ HA や CI を着けるとどのように聞こえるか
 - ⑤ CI を着けた方がいいか、どの病院がいいか
- 2) わが子の先々の見通しについて
 - ① 聞こえなくても生きて行けるか
 - ② わが子の言語発達の見通し、指導法について
 - ③ 先々の学校教育や仕事など将来について
- 3) コミュニケーションについて
 - ① 親子のコミュニケーションの取り方、ベビーサイン、身振り、手話などの使い方
 - ② 手話は使った方がいいか、その学び方
 - ③ ST から手話を使うとことばが出ないと言われたが本当か
 - ④ 聴覚活用のみがいいか
- 4) 子育てについて
 - ① 私に育てられるか、不安で家に閉じこもってしまう
 - ② 家庭で何をしたらいいか
 - ③ 兄弟姉妹の対応
 - ④ 子どもが言うことをきかなくて困っている
 - ⑤ 育児休暇中だが仕事に復帰できるか
 - ⑥ 就労家庭の言語指導法
 - ⑦ 家庭の事情で聾学校幼稚部に通えないが、聾学校幼稚部に入れなくてもやっていける方法はないか
 - ⑧ 家庭不和で離婚を考えている、精神的に不安定で今度どうすればいいか
 - ⑨ 家族の協力が得られない、など
- 5) 発達面での不安
 - ① 複障児、コミュニケーションをどのようにしていけばいいか
 - ② 複障児の進路について、聾学校に入れたいが未だ歩行ができない、さりとて療育機関には手話環境がない
 - ③ 落ち着きがなく、多動で困っている

* 以上は保護者にとって切実な問題ですが、一方、

別紙2

乳幼児教育相談担当教員が回答に困惑している問題：

1) CIに関して

- ① CIを着けた方がいいか
- ② CIの効果はどの位で現れるか
- ③ CIを着けて聞こえているのに、どうして喋れないのか
- ④ CI着用児（学童）の言語発達の実態と発達に違いの生じる原因
- ⑤ 医師から強くCIを勧められたが、年齢的にまだ早いと感じ、手術に踏み切れない、という例
- ⑥ コミュニケーション手段がSTと違っている場合、STの意見を否定しないで保護者を不安に陥れないようにすること
- ⑦ CIを装着させるに当たり、聾学校の支援を受けたいが、病院で手話のある環境には行かない方がいいと言われた
- ⑧ 手話を併用すると音声での会話力が付かなくなるというのは本当か
- ⑨ 大学病院からCIさえ着ければ何も心配ないという一方的な説明を聞いてくる保護者に対する対応
- ⑩ HAの効果が十分確認できていない段階にある子どもに対して、CIを勧めようとする医療機関との連携を取るに当たり、保護者が板ばさみになることへの心配
- ⑪ CIを装着した子どもで音声によるコミュニケーションが十分に理解できない場合、手話をどのようなタイミングで、何時から使っていくのがよいか

2) 遺伝に関して

- ① 遺伝子検査は受けた方がいいか
- ② 二人目の子どもを考えているが、その子が聴覚障碍を持って生まれる確率は
- ③ 親戚や近所の人に耳のことは極力知られないように育てたい

3) 重複障碍児について

- ① 重複障碍児の聴力の把握や発達の見通し
- ② 重複障碍児についての医学的情報や知識が必要なケースがあり、知識の乏しさを痛感
- ③ わが子の行き場（進路）はどこか、何処に行っても断られる、「助けて欲しい」という保護者の声

